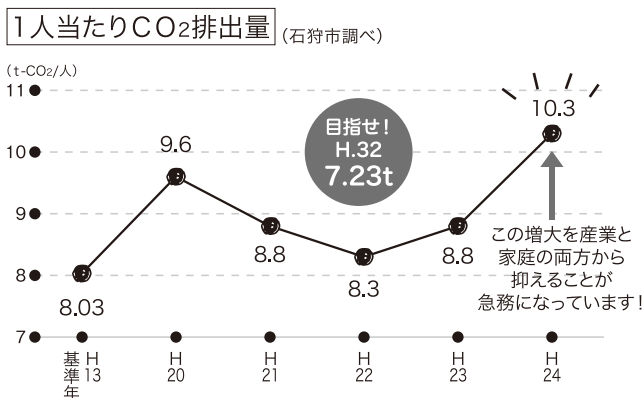


広告

市民1人当たりのCO₂排出量は平成13年より
3割近くも増えているのが現状です
石狩市では平成32年に基準年(平成13年)の10%削減を目指しています



石狩の森と若者をつなぐ「プロジェクトNINOMIYA」→ 6-7ページ

エネルギー

Energy

新人職員
中村 洸太が
レポートします!



“石狩産エネルギー”を使う仕組みを考える 2つの事例から見えてくる可能性

環

環境政策課の中村です。皆さんはエネルギーが食べ物のように地産地消できたらいいなと考えたことはありませんか？

今、私たちが使うエネルギー源のほとんどは、石油などの化石燃料です。化石燃料は、使用するとき非常に多くの二酸化炭素を排出し、加えて日本の場合には、これらの化石燃料を海外から輸入する際にも二酸化炭素を排出しています。この二酸化炭素が地球温暖化の大きな要因になっています。

では、エネルギー源に石油ではなく、私たちの地域にある資源「植物」を使ったらどうでしょうか？

〈植物をエネルギーとして利用するときには排出される二酸化炭素〉と〈その植物が生長する過程で吸収した二酸化炭素〉は、長い目でみると等量であるという考え方(「カーボン・ニュートラル」といいます)があります。そのため、化石燃料の代わりに植物などのバイオマス(生物資源)を使えば、大気中の二酸化炭素量に影響を与えないエネルギーのライフサイクルになるといわれています。

つまり地域エネルギーとしてバイオマスの活用が進めば、石狩版エネルギーの地産地消の仕組みができる可能性があります。そして、その動きがすでに始まっている、と聞いたら皆さんは驚きますか？

今回は、石狩産エネルギーを使う仕組みとして期待を抱かせてくれる2つの事例を私がお案内します。キーワードは「シイタケの菌床」と「若者の薪割り」です!

